

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 植水 小学校) 学校番号 061

【様式】

学校教育目標	かしこく なかよく たくましく ~豊かでたくましい心と体もち、自己の能力を存分に発揮できる子どもの育成~
目指す学校像	○学びを創造し、一人ひとりが輝く学校 ○子どもたちにとって、安心・安全な学校 ○進んで地域・家庭と連携・協働できる学校
重点目標	1 学力の基礎的・基本的事項の確実な定着 2 子どもたちがのびのびと自らを高めることができる落ち着いた環境を作る 3 子どもたちを「よりよく変容させる」ことで、地域・保護者からの学校に対する信頼を勝ち取る 4 事故やケガを未然に防止して、子どもたちにとって安心・安全な環境を作る 5 常に学ぶ意欲をもち、互いに磨き合うことができる職員の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心身のサポートに関する取組

地域・学校に関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和8年2月4日
1	<p>【現状】 ・子どもたちに学力の基礎的・基本的事項の確実な定着のために、①朝の国算タイムの実施 ②研修において、研究課題の克服や授業改善に取り組んでいる。 ・R06年度「さいたま市学習状況調査」結果 →3~5年[国→▼算→▼] 6年[国語→▼算→▽]</p> <p>【課題】 ・子どもたちに学力の基礎的・基本的事項が定着していないために、それらを活用して課題を解決することが難しい。</p>	<p>○学力の基礎的・基本的事項の確実に定着させる</p> <p>○学習規律の徹底及び落ち着いた学習環境の維持</p>	<p>・朝の「国算タイム」の計画的な実施 ・子どもたちに「母語への気づき」を多く味わわせる(日本語についての知識を高めさせる)。 →①ことばの世界(毎週)②日本語と外国語(G.S.)を比較して ・研修において、日々、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>・正しい姿勢、丁寧な文字を書く指導の徹底する。 ・何でも言える雰囲気や常に教室に醸し出し、「わかった・できた喜び」をたくさん味わわせる授業を実践する。</p>	<p>OR07年度「さいたま市学習状況調査」平均正答率 →3~6年:「国語」→○ :「算数」→○ ※「○」→市の平均正答率を3pt以上、上回っている 「▽」→市の平均正答率を3pt未満、下回っている 「▼」→市の平均正答率を3pt以上、下回っている</p> <p>○学校評価アンケート「学習」(児童)項目に関する肯定的回答→90% (R06年度→81%)</p>	<p>・毎週月曜日の朝の「国算タイム」を計画的に実施することができた。その結果、各担任は学力の基礎的・基本的事項の定着を意識しながら、日々の授業を進めるようになった。が、子どもへの確かな定着はまだ不十分なのが現状である。 ・[R07年度結果]「国語」3~6年→▼ 「算数」3,6年→▽ 4,5年→▼</p> <p>・学校評価アンケート「学習」(児童・保護者)項目に関する肯定的回答→(児童)92% (保護者)90%</p>	C	<p>・次年度も、引き続き学力の基礎的・基本的事項の定着に取り組んでいく。なぜなら、定着するからこそ、身の回りに対して「なぜ」や「課題」などに気づき、解決への意欲をもつことができるものと考えられるからである。</p> <p>・授業に向かう姿勢については、引き続き学校全体で声かけを行っていく。 ・すべての子どもたちが、安全・安心な環境の下、互いを尊重しながら学校生活を送れるようにする。 ・「わかった・できた喜び」のために、教材研究の時間を確保し、校内研修を充実させていく。</p>	<p>○学習の習熟度を高めるために、基礎訓練が大切と考えます。知る楽しさを体験させていく。 ○今後、基礎能力の徹底を図っていき、のびしろの多い子どもたちから、期待できるものと思えます。 ○学校における学習だけでなく、家庭での学習と両立することで成果が表れるのではないかと考えます。 ○子どもたちの学力は定着しないのが普通で、繰り返し繰り返し学習することが大切だと思います。 ○学習規律については、正しい姿勢や丁寧な文字を書く姿勢が、子どもの内に自発的に生まれる仕掛けがあるとよいと思います。</p>
2	<p>【現状】 ・子どもたちは毎日元気に、勉強・遊びに取り組んでいる。 ・R06年度「いじめ」「不登校」件数 「いじめ」→6件 「不登校」→7件</p> <p>【課題】 ・「当たり前」のことは「当たり前」(あいさつ・清掃・給食)の徹底が不十分である。 ・アンケート結果により自分に自信がもてない</p>	<p>○誰もが安心・安全な環境で学校生活を送ることができる(いじめ・不登校件数の削減)</p> <p>○自分自身(子ども)に自信をもたせる</p>	<p>・いじめに対しては、未然防止を念頭に置きながら、子どもたちへの声かけや明るい学校・学級づくりをする。 ・子どもと担任の信頼関係を強固にし、何でも言い合える関係になることで、不登校の減少を目指す。</p> <p>・担任が常に「当たり前」(あいさつ・清掃・給食)の姿を示し、子どもたちと共に徹底して取り組む。 ・子どもたちに、何事にも「目標」→「計画」→「実行」の意識をもって取り組ませる。 →「達成感/充実感」を多く経験させる場を作る。</p>	<p>○学校評価アンケート「学校はトラブルに対して迅速かつ丁寧に対応している」(保護者)項目→肯定的回答 90%以上 (R06年度→89%)</p> <p>○いじめの未然防止、起きてしまった時の迅速、丁寧な対応の徹底と不登校の件数削減</p> <p>○学校評価アンケート「毎日元気に登校している」(児童・保護者)項目に関する肯定的回答 95%以上 (R06年度(児童)94%(保護者)96%)</p>	<p>・生徒指導対応について、「①事実確認→②家庭へ報告(時には訪問)→③早期解決→④見守り」が徹底できるようになっている。その結果、子どもたちの誰もが安心して自身を高めることができる環境づくりに繋がっている。</p> <p>・R07年度「いじめ」8件【不登校】6件(1/28現在) ・学校評価アンケート「学校はトラブルに対して迅速かつ丁寧に対応している」(保護者)項目に関する肯定的回答→(保護者)93%</p> <p>・学校評価アンケート「毎日元気に登校している」(児童・保護者)項目に関する肯定的回答→(児童)93% (保護者)99%</p>	B	<p>・日頃より、子どもとの強固な信頼関係を築くことを土台に、生徒指導課題発生の未然防止に取り組んでいく。ことが起きてしまった時の対応については、迅速性や丁寧に磨きをかけていく。</p> <p>・毎月の生徒指導委員会で、多くの職員で子どもたちの実態を把握し、日頃の声掛けや見守りを徹底していく。</p> <p>・「当たり前」を当たり前(あいさつ・清掃・給食)を大切にしながら、子ども自身が自らの高まりを実感できるよう指導を徹底していく。子どもが実感できた際には、見逃すことなく教師による言葉かけを行う。</p>	<p>○いじめ問題などについては、教師一人で悩むのではなく組織的指導が大切である。 ○誰もが安心・安全な環境で学校生活を送るためには、子ども・保護者・学校の信頼関係を強固にし、何でも言い合える関係にすることが大切である。 ○いじめ・不登校対応では、丁寧にかつ組織的に対応していることがわかります。 ○子どもの成功体験に対して、教師が言葉かけを行うのは、子どもにとって自信に繋がります。ぜひ、実行してみてください。</p>
3	<p>【現状】 ・自治会や青少年育成会などの地域関係機関と協力しながら、子どもたちのよりよい成長のための行事を行っている。→「社会を明るくする運動」「植水地区運動会」「植水青少年子どもまつり」など</p> <p>【課題】 ・地域・保護者の方々に学校・子どもたちの実態をより知ってもらいたい。 ・地域・保護者の方々が想う「育て欲しい子どもたちの姿」とそのための取組の共有ができていない。</p>	<p>○本校の現状を地域・家庭に知ってもらう</p> <p>○地域・家庭・学校で子どもたちを見守る体制を強化する</p>	<p>・コミュニティスクール(年3回)にて本校の実態(学力・体力・生徒指導など)について説明する。→理解していただき課題克服のための話し合いを行う。 ・学校だよりや学校HP(毎日更新)で子どもたちの様子について発信していく。</p> <p>・将来の植水地区、さいたま市を担う大人に成長してもらうために何をすべきなのかコミュニティスクールで熟議を重ねる。 ・行事開催のため地域関係機関と協働し、多くの参加者を確保するために周知を徹底する。</p>	<p>○地域・家庭・学校で、子どもたちの実態の共有</p> <p>○学校評価アンケート「学校や子どもたちの様子を伝えているか」(保護者)項目に関する肯定的回答 90%以上</p> <p>○学校評価アンケート「地域協働」(保護者)項目に関する肯定的回答 90%以上</p>	<p>・学校評価アンケートの保護者自由記述より、毎日家族でHPを見て話題にしているなどの意見をいただくことができた。 ・学校評価アンケート「学校や子どもたちの様子を伝えているか」(保護者)項目に関する肯定的回答→97%</p> <p>・地域の各種行事(祭り/地区運動会/子ども会/クリーン活動)に参加することができた。その時の子どもたちの様子から、彼らのよりよい成長のために、引き続き、学校として地域・家庭に積極的にかわらせていただきたいと考える。 ・学校評価アンケート「地域との協働」(保護者)項目に関する肯定的回答→(保護者)96%</p>	B	<p>・コミュニティスクールにて、子どもの実態を把握し、それを基本として話し合いや熟議を進めていく。そして、子どもたちの、よりよい成長のために地域・家庭・学校ができることを明確にしていく。</p> <p>・引き続き、地域・家庭・学校が連携しながら子どもたちの成長を見守っていく。次年度は、特に「レッツジョイン・クリーン活動」へのより多くの子どもの参加を促す。</p>	<p>○土日の地域行事にも先生方がご参加くださり、熱意を感じます。子どもたちも学校以外の場で活躍する姿を見てもらって嬉しそうです。 ○子どもたちが地域で行われる各種行事に参加することで、地域のすばらしさを学び、人間として成長する。 ○地域・家庭との強固な基盤を維持しつつ、さらなる連携深化を目指す姿勢に敬意を表します。 ○地域や保護者に積極的な学校への関与を促すためには、互いのより一層の相互理解の醸成が不可欠だと思います。 ○地域とのつながりは、子どもたちの安全にも繋がります。</p>
4	<p>【現状】 ・誰もが気持ちのよい環境の中で、学校生活を送れるよう、子どもたちは日々の清掃活動に取り組んでいる。 ・毎月の安全点検(体育施設は月2回)を行っている。 ・子どもたちが、日々安全で落ち着いた生活を送れるよう全職員、生徒指導部から声かけを徹底している。</p> <p>【課題】 ・学校内でのケガの件数(保健室で対応) →R06年度(12月20日現在)656件 ・子どものケガを未然に防ぐために職員の意識を高める。</p>	<p>○学校内での子どものケガの件数を削減させる</p> <p>○学校施設の瑕疵による事故を未然に防ぐ</p>	<p>・気持ちのよい環境の整備・維持のため、日々、頭を使った清掃活動を行う。 ・ケガの多い授業(体育・図工・理科など)における事故・ケガ防止研修を各主任が行う。 ・落ち着いた環境のために、全職員、生徒指導部による声かけを徹底する。</p> <p>・安全点検は、子どもの目線で、叩いて、ゆすつてを基本とする。 ・安全点検結果から、要修繕箇所があった場合には即修繕をする。 ・適切かつ効果的な予算執行のために、管理職と事務職員による予算会議を実施【年3回】</p>	<p>○子どものケガの件数を昨年度比20%削減 (R06年度(12月20日現在)656件)</p> <p>○学校施設の瑕疵による事故 ゼロ</p> <p>○安心・安全な環境の整備・維持のために効果的な予算の執行</p>	<p>・「事故・ケガ防止研修」内容が全職員に徹底していないこともあった。何のための研修であったのかを考えさせ、全校で事故・ケガの未然防止のために取り組んでいかなければならないことを確認する。 ・[R07年度]学校内での子どものケガの件数(12/20現在)→533件</p> <p>・毎月の安全点検を確実に実施し、学校の瑕疵による事故はなかった。点検後、修繕箇所がある場合には即修繕を行った。 ・適切な予算執行のための予算会議を、管理職、事務職員、教科主任で行うことで、スムーズに予算の執行ができた。</p>	B	<p>・学校生活での「事故・ケガ防止研修」の内容の質を高めながら(どの場面、どの授業単元を明らかに)、継続して行っていく。 ・子どもたちに、落ち着いた生活を生徒指導や特別活動部会が中心となって働きかけていく。</p> <p>・引き続き、子どもの目線で、叩いて、ゆすつてを基本に安全点検を行っていく。 ・予算については、各教科主任の意見を尊重しながら、必要性の高いものから執行していく。</p>	<p>○子どもたちが学ぶ場の整備、美しい学校を目指すことが彼らの学力の向上に結びつくものと考えます。 ○気持ちのよい環境の中で学校生活を送るために、子どもたちとの日々の清掃活動に取り組むことが大切である。 ○ケガの発生件数を2割削減させたという成果は、安全管理対策の実効性を如実に物語っています。 ○子どもたちが、学校が取り組む安全対策と予期される危険の関係について学習できていると思う。</p>
5	<p>【現状】 ・「子どものよりよい変容」のために、学校全体として互いに協力しながら職務に励んでいる。 ・日々の業務に追われ、教師としての資質を高めるための自己研鑽に励むことが難しい。</p>	<p>○なんでも言える風通しの良い職場環境</p> <p>○働き方を意識して職務に励む</p>	<p>・「子どものよりよい変容」のために気付いたことは互いに声かけたり、考えを提案したりする。</p> <p>・時間外在校時間の削減のために(全職員 45時間以内)→①「仕事は分担(割り算の考え)、終わった喜びはみんなで(かけ算の考え)」を徹底する ②割振調整(勤務を割り振ると同時に調整取得日を記入)や年休の計画的な取得の推奨 ③会議時間を削減し、子どもや職務に向き合う時間を確保する</p>	<p>○学校評価アンケート「働きやすい職場」(職員)項目に関する肯定的回答 60%以上 [R06年度→39%]</p> <p>○一人当たりの時間外在校時間/月平均を昨年度比20%削減 [R06年度→29時間/月]</p> <p>○「自己研鑽フォルダ」を使って、各自学んだことの共有</p>	<p>・当事者意識をもちながら何でも言いたい、何でも提案できる雰囲気を作るために、声かけ時には指名をするなどして職員のいろいろな考えや想いや表現を引き出してきた。 ・学校評価アンケート「働きやすさ(時間外在校時間削減)」(教職員)項目肯定的回答→62%</p> <p>・「自己研鑽フォルダ」に自ら学んだことを格納し、職員に広めようとする職員が増えている。 ・担任が子どもたちと十分に触れ合う時間を確保するための働き方について十分に指導できなかった。 ・一人当たりの時間外在校時間→平均37時間/月</p>	C	<p>・会議の際には、誰もが何でも言えるようにしなければならぬと日々痛感している。各職員が当事者意識をもちながら何でも言いたい、何でも提案できる雰囲気を作っていく。そのため声かけ、時には指名をするなどして職員のいろいろな考えや想いを導き出していく。</p> <p>・引き続き、「仕事は分担(割り算の考え)、終わった喜びはみんなで(かけ算の考え)」を徹底する。 ・時間外在校時間削減のために、「子どものよりよい成長のために」必要・不要なことを、皆で明確にし、共有していく。</p>	<p>○教員の置かれている現状の厳しさは察することができます。教員の業務内容の見直しと人材育成の充実を行政に望みます。 ○子どもへの教育的愛情と使命感をもって、わかりやすい授業を展開する「指導力」、子ども一人ひとりに寄り添う「人間力」を磨くことが必要である。 ○引き続き、業務効率化の推進を強く支持いたします。</p>

学校運営協議会による評価

実施日 令和8年2月4日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等